



コロナ禍のなかでのとくみ



運動不足防止の為、
縄跳びを始めました。



事務所内もホームセンターにて材料を購
入して、飛沫防止パーテーションを設置
しました。

たくさんのご寄付 ありがとうございます



海外へ単身赴任をされていたご家族か
ら寄付していただいたマスクです。



ご家族様よりアルコール消毒液が不足し
ていた際に、一斗缶のご寄付をいただき
ました。



「#福祉現場にもマスクを」を合言葉に
一般社団法人障害攻略課、NPO法人D-
SHIPS32、一般社団法人Get In touch、
株式会社ヘラルボニーから「おすわ
けしマスク」のご寄付をいただきまし
た。



沢山の方々から手作りマスクのご寄付も
いただきました。



社会福祉法人

みのり会だより

発行：2021年1月

社会福祉法人みのり会
〒216-0006
川崎市宮前区宮前平1-8-12
Tel 044(855)9455 Fax 044(855)9454
<http://www.tobe-kobato.or.jp/>



謹んで新春のお喜びを申し上げます

社会福祉法人みのり会 理事長 宮澤 明



旧年中は大変お世話になり心より御礼申し上げます
本年もよろしくお願いいたします

昨年中は、コロナ禍利用者様のストレスは計り知れないものがありました。また、日々ご利用者様の支援にあたる職員一同、厳しいストレスと闘いながら、コロナ感染防止に引き続き努めているところです。

クラスターの発生した障害者福祉施設等や高齢者施設等で必死のご支援をされた皆様へ、お見舞い申し上げます。また、医療従事者の皆様には心より御礼を申し上げます。

当法人では本年3月、「高齢期まで安心して暮らせる生活の場」としての「グループホーム第2馬絹こぼとの家」（定員女性5名）、「グループホーム第3馬絹こぼとの家」（定員男性5名）、「生活介護 セルフ宮前こぼと 分場 陽だまり」が移転し、定員6名を9名へと拡大する予定です。この3カ所の事業所は一体的に、セルフ宮前こぼとから徒歩3分の立地に新築されます。コロナ禍のため建設に多少の遅れもありましたが、建設会社の追い込みでグループホームは3月に、「分場 陽だまり」は4月1日に開所する予定です。新グループホーム入居者の皆さんは、現在の8ホーム42名の内、バリアフリーの環境が必要な方々と新規に50歳以上のご希望の方に優先的に入居していただくことにしています。空きになったグループホームに新規に入居される方々をお迎えする予定です。「高齢期まで安心して暮らせる生活の場」作りを目指してきた法人の目的が、一歩前進した感があります。新たな事業所は、随所に障害のある人たちに使いやすい建物となり、よりよい環境を整備してきましたが、なにより、利用者様のご支援をする職員スタッフの力なくしては成り立ちません。職員がご利用者お一人、お一人に適したご支援ができるよう、研修に努めてまいります。

コロナ禍において、厳しい事態は続いています。何より、感染防止に努めながら力を合わせ、元気に明るく前進していきたいと思っています。どうぞ、本年も皆様のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



高齢期まで安心して暮らせる生活の場をめざして！



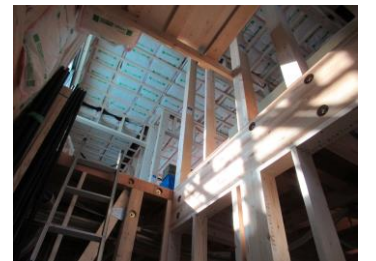
グループホーム第2馬絹こぼとの家
第3馬絹こぼとの家

（令和3年3月 開所予定）



セルフ宮前こぼと
新 分場 陽だまり

（令和3年4月 開所予定）



令和元年度 社会福祉法人みのり会 事業報告

令和元年6月21日 定時評議員会において次期役員の選任の決議がなされ、理事に宮澤明、山中淳子、堀壽雄、大坪明日香、中古禪、阿部千鶴子、監事に山本恒太、加藤譲が再選。同日、開催の理事会において、理事長に宮澤明、常務理事に山中淳子が再選されました。

みのり会ホームページにおいて組織図、定款、決算報告、現況報告、役員名簿、役員報酬規程等情報を公開。「地域における公益的な取り組み」について、川崎市社会福祉協議会の「地域生活支援SOSかわさき事業」に加盟。みのり会独自では、法人内のグループホーム入居利用者様の高齢となったお一人暮らしのご家族の見守り支援や介護保険サービスへの橋渡しを「公益的な取り組み」と位置づけました。次年度には、法人内利用者様ご家族様からご要望の多い、身上監護を中心とした低額な報酬による法人後見について、「仮称・みのり会公益的法人後見事業設立準備会」を設置する予定としました。

令和元年10月21日に「川崎市令和元年度社会福祉法人指導監査」が実施されました。文書による指示事項はなかったものの、口頭で改善指導のあった事項についてその改善に努めました。

川崎市内において、台風による甚大な被害が報告されました。みのり会の事業においてもグループホーム2住居において、ベランダの床の剥がれや、雨樋が破損するなどの被害がありました。洪水浸水想定区域内にある事業所について風水害防災マニュアル策定の見直しを行いました。

令和2年2月24日 川崎市健康福祉局保健所作成の「新型コロナウイルス感染症の対策について『市民の皆様へ』」の通知により、その翌日より法人内各事業所において、毎日の検温、マスクの着用、手洗い、手指の消毒などの徹底に努めました。

「人材の確保」を目指すため、新卒者の給与の大幅なアップを図ることを主眼とした給与表の改定、再雇用を定年65歳から最長10年までの延長。職員健康診断、ストレスチェックを重視した取り組みの開始。働き方改革関連法の施行による「同一労働、同一賃金」に基づく職員就業規則、準職員就業規則、給与規程の変更を行いました。

事業拡大では、「共同生活援助」（グループホーム）の設立を目指し、宮前区馬絹を最有力候補地と定め「グループホーム設置及び陽だまりⅡ」次年度設立に向けたプラン作りに着手。令和2年1月8日 川崎市障害計画課に相談を開始。1月10日「グループホーム開設申請書」を提出。男性5名、女性5名の内示をいただきました。6月1日「グループホーム第2高山こぼとの家」の定員を3名から4名に拡大しました。「生活支援センター きまっしー」に相談支援専門員1名を増員。さらに生活支援員1名を相談支援専門員と兼任する体制に変更しました。ヘルパーステーションは、人材の確保が困難であったため8月末日をもって廃業としました。

「生活介護 あーる工房」では、新たな利用者様6名、「厨房じんべい 分場 工房じんべい」では、新たに2名の利用者様に利用を開始していただきました。

平成4年竣工の「生活介護 セルプ宮前こぼと」では、老朽化したエレベーターの交換工事を「神奈川県共同募金会 施設整備費」400万円の配分をいただき総工費1650万円で実施。「生活介護 あーる工房」では、利用者様の安全対策のためエレベーターに暗証番号を入力するテンキーを設置しました。

法人理念の実現と経営の安定、事業拡大を目指し、法人事務局会議、管理者・主幹会議及び安全衛生委員会は原則毎月実施しました。

役員外部研修には、6回延べ16人が参加。職員外部研修会には25回、延べ43名。法人内新人職員研修会には、管理者4名、職員11名。後援会合同学習会に役員5名、職員3名。AED研修会に職員28名。口腔ケア研修会に職員18名、人権擁護研修会に役員4名、職員95名。まじわる宮前苦情解決第3者委員まとめ 職員28名が参加しました。

令和元年度 各事業所報告

共同生活援助 グループホーム宮前こぼとの家



令和2年3月31日現在、8カ所のグループホームに41名（定員41名）の方々にご利用いただきました。法人内の生活介護事業所の利用者様で、ご家族の疾病等からホーム入居が必要になられた方があり、「グループホーム第2高山こぼとの家」の定員を3名から4名に変更し急遽入居していただきました。利用者様の全体の平均年齢は42.56歳になりました。

令和元年6月、11月に消火・避難・通報訓練を全ホーム実施。台風19号の豪雨の際には、災害用備蓄品を活用しました。消防署の防火建物立入検査において、木造3階建ての「馬絹こぼとの家」について小規模福祉施設としての建築基準に合致する改装が必要との指摘を受け、階段室及び防火扉の設置、家庭用エレベーターを使用しないよう封じ込め工事を実施。エレベーターの使用ができなくなったため、歩行障害のある方の住み替えの検討が余儀なくされました。

ホームが楽しい生活の場となるよう、誕生日会や四季折々の行事等を企画実施しました。

世話人等を増員したものの働き方改革により有給休暇の取得対応に追われ、利用者様のご希望にこたえられる余裕のある職員配置を確立するには至りませんでした。ご家族の高齢化により、年末年始を含めご家庭へ帰省することのできない方が非常に多くなりました。そのことに伴い、通院・入院付添支援や衣類などの購入、散髪等もホームで行うことが日常化してきました。令和2年の年明けから新型コロナウイルス感染症の流行が見られ始めたため、利用者様の命を守る生活様式の維持継続に努めました。



地域相談支援センター ポポラス

ポポラスは、2名の常勤職員と1名の非常勤職員で日々の業務を行っております。

事業内容は川崎市の施策でこれまでの計画作成（ご利用者様のご希望されるサービス受給の計画を区役所に提出する）中心の事業内容から、一般相談（まだサービスを利用していない方々からのご相談への支援）中心の事業内容への変遷期間にあります。80-50問題や多問題の家庭などの支援を行いながら思うのは、地域の方々との連携がいかに重要であるかという事です。また医療や地域包括支援センターとの連携も大切です。

私たち相談員は、ご利用者様の支援を通して、地域の方々や多職種の方々を知り合い、関係性を作りながら、育てていただいているのだと、日々実感しております。

これからも、ご利用者様との出会いは一期一会と思い、丁寧な関わりを心掛けて行きたいと思います。



生活支援センター きまっしー

きまっしーは、令和1年度から相談支援専門員を1名配置し「計画相談」を実施することになりました。地域相談支援センターポポラスが担当していた法人内利用者の計画相談をきまっしーが行う事にし、ご本人・ご家族にはご理解いただけるよう丁寧に説明しながら行いました。

地域生活支援としては、地域生活をおくる上での困りごとやのご相談をお受けする他、障がいのある方と地域にお住いの方々の交流をすすめながら地域の福祉力アップを目指してきました。

しょうがい者サポーターは、今年度は20名の登録がありおかげさまで220名を超えました。地域住民の方に障がい者を見守っていただく・お声かけをお願いしたいという気持ちで広めています。

障がい基礎講座・ワークショップ・トーク等を行いました。夏祭りは親子連れの来客が増え少しずつ地域の皆様に知っていただくようになったと感じる1年でした。3月は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止となったイベントもあり残念でした。



【サボちゃん】

事故報告・ひやり体験・苦情解決第3者相談

- 事故報告は、全事業所で51件（服薬漏れ・誤薬等、利用者傷病・他害・自傷・行方不明等、車両事故等、職員怪我、書類等の取違え・紛失、その他）
※障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービス事業者などの事故報告要領による川崎市への届け出はグループホームで骨折2件（自ら立ち上がりざま足をひねったことによる骨折。他の利用者様の接触を避けようとし手を振り払った際の骨折）、インフルエンザ1件がありました。
- ひやり体験は、全事業所で150件。
- みのり会 苦情解決第3者委員への相談者は年間延べ305人。川崎市障害施設事業協会苦情解決に係る協力員の訪問は、1事業所のみ3回延べ31人の相談がありました。理事会に報告するような苦情はありませんでした。

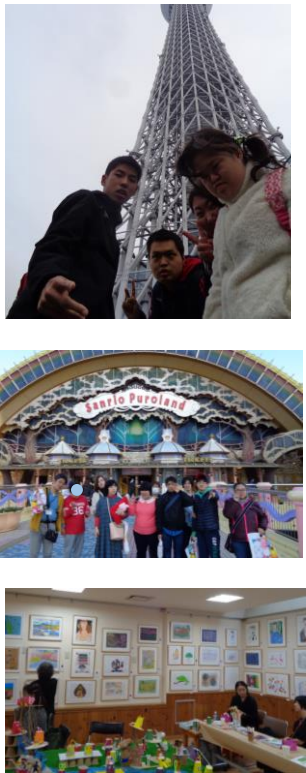
生活介護 あーる工房

4月より新たに6名の利用者様を受入れ、定員50名、現員54名になりました。3月から受け入れ準備を始め、4月に環境変化が少なくなるよう配慮しました。

10連休となったゴールデンウィーク中の3日間は開所し、夏期休暇も廃止するなどサービスの向上に努めました。ゴールデンウィーク中にはベーカリーカフェの利用者様が講師となり、全利用者様がパン作りに取り組みました。8月のお盆時期にはかき氷やヨーヨーなど夏を楽しむ企画を行いました。

4グループに分かれ千葉への宿泊旅行を行いました。温泉、マザー牧場と三陽フラワーミュージアム、イタリアンレストランでの食事を楽しみました。後半のグループは台風被害のため、鴨川シーワールドに変更になりました。

また、グループごとに日帰りでこどもの国、スカイツリー、サンリオピューロランド、カップラーメンミュージアムなど交通機関を利用した外出にも挑戦しました。



短期入所 こころん

今年度は新規契約者が19名、契約者が96名になり、年間で延べ1,646名の利用がありました。障害支援区分5，6の方が半数以上を占めています。

居室でゆっくり過ごす方、土日のおやつ作りを楽しみにされる方など過ごし方も自分スタイルです。また短期入所での経験がスムーズなグループホーム入居につながったとのうれしい報告もいただいています。



日中一時支援 たのしみ

定員5名の夕方支援を実施しています。

創作活動や買い物、バランスボール、パズル、書き取りなどお好きな活動にのんびり取り組まれています。

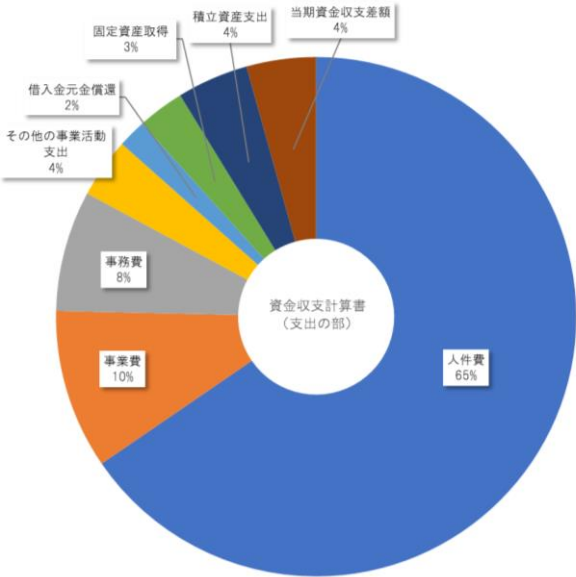
季節ごとの装飾、カレンダー、鳥のモビールや段ボールハウスづくり、またお誕生会に取り組みました。馬絹神社の祭礼では御神輿の見学もさせていただきました。



令和元年度 社会福祉法人みのり会 決算報告

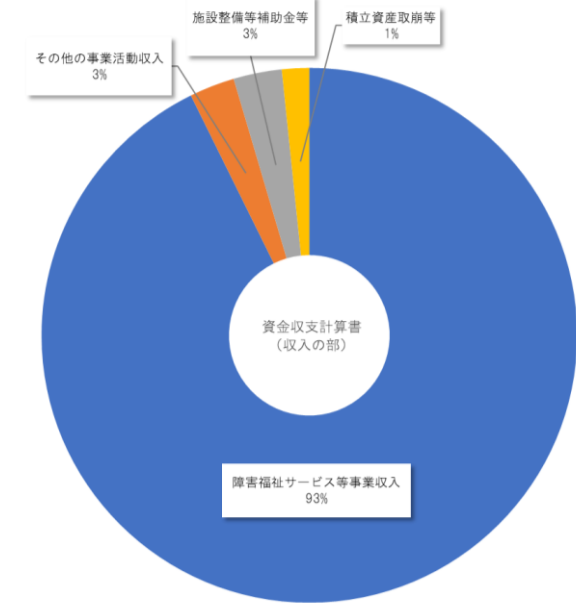
資金収支計算書
(平成31年4月1日～令和2年3月31日) 単位:千円

借方		貸方	
科目	決算	科目	決算
事業活動支出	668,311	事業活動収入	736,683
施設整備等支出	35,988	施設整備等収入	22,491
その他の活動支出	34,255	その他の活動収入	12,708
当期資金収支差額	33,328		
合計	771,882	合計	771,882



事業活動計算書
(平成31年4月1日～令和2年3月31日) 単位:千円

借方		貸方	
科目	決算	科目	決算
サービス活動費用	681,862	サービス活動収益	717,278
サービス活動外費用	6,910	サービス活動外収益	19,410
特別費用	18,743	特別収益	24,055
当期活動増減差額	53,228		
合計	760,743	合計	760,743



貸借対照表
(令和2年3月31日現在) 単位:千円

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増減	科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	350,789	324,649	26,140	流動負債	58,342	63,278	-4,935
現金預金	224,885	217,127	7,757	固定負債	129,517	141,534	-12,016
事業未収金等	125,904	107,521	18,383	負債の部合計	187,860	204,812	-16,952
固定資産	1,644,838	1,649,520	-4,682	純資産の部			
基本財産	1,166,109	1,192,688	-26,578	基本金	61,535	61,535	-
土地	69,099	69,099	-	国庫補助金等特別積立金	952,075	966,893	-14,817
建物	1,097,010	1,123,588	-26,578	その他の積立金	315,844	295,044	20,800
その他の固定資産	478,728	456,832	21,896	次期繰越活動増減差額	478,313	445,884	32,428
固定資産	120,004	120,357	-353	(うち当期活動増減差額)	53,228	6,884	46,344
退職給付引当資産	37,727	36,128	1,599	純資産の部合計	1,807,767	1,769,357	38,410
その他の積立資産	315,844	295,044	20,800	資産の部合計	1,995,628	1,974,170	21,458
差入保証金等	5,152	5,301	-149	負債・純資産の部合計	1,995,628	1,974,170	21,458

令和元年度 社会福祉法人みのり会 財産目録

令和 2年 3月31日 現在

(単位：千円)

貸借対照表科目	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	—	—	224,885
事業未収金	—	—	110,254
未収補助金	—	—	9,195
貯蔵品	—	—	1,782
商品・製品	—	—	814
仕掛品	—	—	40
原材料	—	—	562
前払費用	—	—	3,253
流動資産合計			350,789
2 固定資産			0
(1) 基本財産			0
土地	69,099	—	69,099
建物	1,331,528	234,518	1,097,010
基本財産合計			1,166,109
(2) その他の固定資産			0
建物	137,798	57,110	80,687
機械及び装置	47,174	43,371	3,803
車輛運搬具	47,026	34,462	12,564
器具及び備品	68,580	47,533	21,046
権利	2,349	1,297	1,051
ソフトウェア	7,049	6,198	850
退職給付引当資産	—	—	37,727
その他の積立資産	—	—	315,844
預託金・出資金	—	—	1,086
差入保証金	—	—	4,066
その他の固定資産合計			478,728
固定資産合計			1,644,838
資産合計			1,995,628
II 負債の部			
1 流動負債			
事業未払金	—	—	17,710
1年以内返済予定設備資金借入金	—	—	13,616
賞与引当金	—	—	27,015
流動負債合計			58,342
2 固定負債			
設備資金借入金	—	—	91,790
退職給付引当金	—	—	37,727
固定負債合計			129,517
負債合計			187,860
差引純資産			1,807,767

共同募金 お礼

セルフ宮前こぼと：エレベーター購入

定員11名ストレッチャーも入るエレベーターへの交換工事を実施させていただきました。液晶モニターには、1週間の天気やニュースなどが映し出されます。ありがとうございました。



厨房じんべい：車両購入

令和元年度、厨房じんべいでは、かながわ県共同募金会様より受配金をいただき、送迎車を購入することができました。新しい車両に利用者の皆さんも笑顔で喜んでいました。これからも安全運転に努め、大切に利用させていただきます。ありがとうございました。



令和元年度 各事業所報告

生活介護 セルフ宮前こぼと / 分場 陽だまり

令和2年3月31日現在、利用定員は42名（セルフ宮前こぼと36名、分場6名）、年度途中1名が他県に引っ越されたため、現員は45名になりました。また、平均年齢は42.06歳。50歳以上の方は11名でした。心身の疾病が増加し、大学病院や精神科病院への入退院の多い1年でした。区内の眼科医院のご協力で眼科検診を行ったところ、白内障が発見され3名の方が入院手術を受けられました。入院中、ご家族の支援を受けられた方は少なく、グループホームと協力し合い職員が交代で付き添いをしました。

高齢期対策として、整形外科医師や歯科医師、内科医師、耳鼻咽喉科医師、眼科医師、作業療法士に訪問等していただき、日常活動の在り方や食事、環境の整備、ストレッチなど健康管理のご指導をいただきました。

令和元年度末には新型コロナウイルス感染症が国内でも広がり、日々の検温、マスクの着用、手指の消毒など感染防止の徹底を図りました。

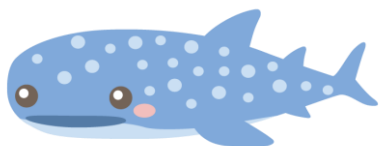


楽しい活動では、利用者様の心身の状況から1泊旅行と日帰り旅行のグループに分けて旅行を実施。利用者の会“たんぽぽ会”では夏祭り、宮前平駅頭での共同募金活動、「まじわるdeトーク」への役員の参加。生産活動では農園活動や、7カ所の企業様からポスティングやボールペン組み立て、園芸用品の計量・袋詰め等発注していただき、無理なく楽しめる作業を行いました。

2月から3月末まで1カ月半を費やしエレベーター交換工事を完了しました。



【分場 陽だまりでの作品制作】



生活介護 厨房じんべい / 分場 工房じんべい

令和元年度、厨房じんべい及び工房じんべいでは、利用者様の笑顔を大切にできる事業所として、職員一同心がけてきました。

事業所間の所在地が離れているため、利用者様同士が交流できる行事を多く実施しました。

中でも年末に実施したミカン狩りは、利用者の皆様の笑顔が絶えませんでした。

令和2年1月に入ると、新型コロナウイルスの流行により、じんべいでも感染対策として日中取り組んでいた活動の一部を中止し、感染防止に努めました。

イベントでの販売や外出もできなくなり、利用者様にとってはストレスとなっていたようです。年度末は、室内でできる活動の充実に努めました。



【芋ほり】



【日帰り旅行】



【一泊旅行】



【分場 工房じんべい】



【厨房じんべい】